

交流促進担当業務について

令和5年4月19日

(公社) 日本観光振興協会交流促進部門

令和5年度 交流促進部門 主要事業

1. 酒蔵ツーリズム推進事業

2. 環境省多言語解説整備調査事業

3. 台湾関連事業

- 2023日台観光サミットin 愛知 2023.9.7～10
- ITF2023(台北国際旅行博) 2023.11.3～6

1-1. 酒蔵ツーリズム推進事業について

➤ 目的 酒蔵を地域創生のための観光資源として活用

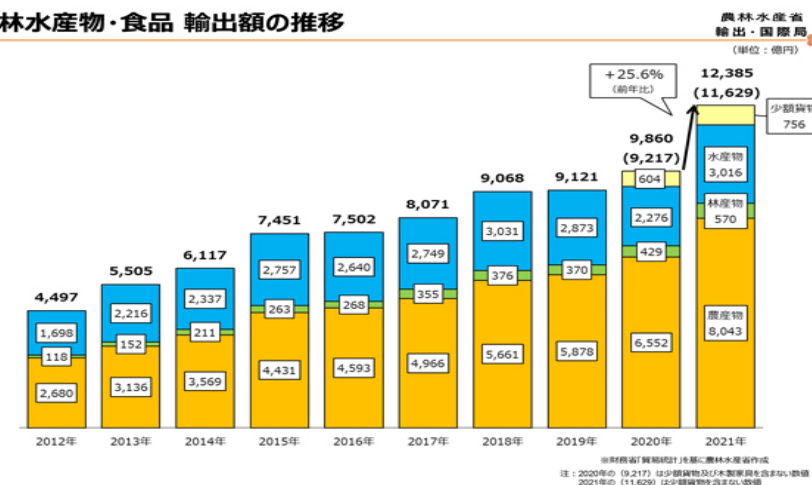
➤ 背景 日本産酒類の海外への輸出が、近年際立って増加している

➤ 令和4年度事業

- ツーリズムEXPO2022東京ブース出展
- ITF台湾国際旅行博2022出展
- 国税庁ブランド化事業 台湾マーケット調査

日本産酒類の海外輸出

農林水産物・食品 輸出額の推移



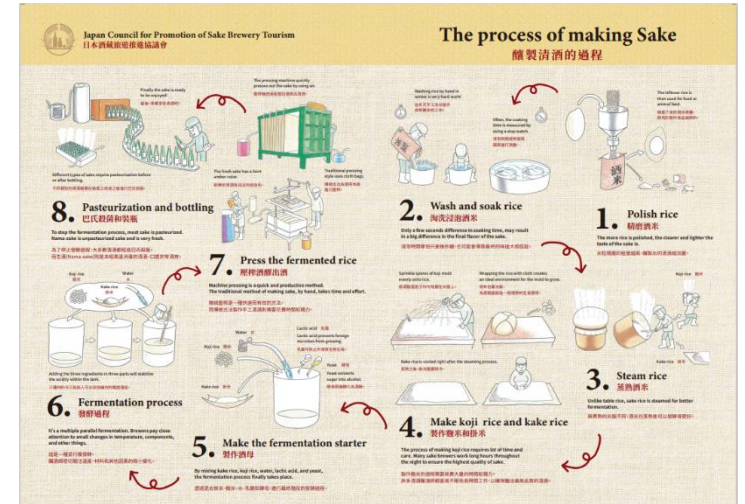
2021年（1月～12月）は、日本酒 +160億円 (+66%) の増加で401億円と過去最高となる
小売店向けやEC販売の増加に加え、中国・米国等の外食需要の回復による台湾は、93億円で前年比42%の増加



1-2. 酒蔵ツーリズム推進事業について

▶ プロモーションのポイント

- 全国の酒蔵の数が1,350以上あり、それぞれ地域の自然、伝統技術、風土、水、酒米などにより、特徴あるお酒が造られている
 - 日本産酒類と外国のワインなどのとの製法の違いを理解してもらう
 - GI(地理的表示)を地域のお酒のブランド化に活用する
 - 日本の食と、特に地域の郷土料理とのマリアージュなどをアピールする
- ## ▶ 今後の展開(令和5年度)
- ツーリズムEXPO2023大阪、ITF台湾国際旅行博2023での酒蔵ツーリズムブース出展
 - 飲食的、旅館等での日本産酒類消費実態把握
 - モデル事業等



2-1. 環境省 国立公園等多言語解説等整備事業調査 業務受託事業

- 受託期間：令和5年4月13日（木）～令和6年3月29日（金）
- 事業内容：
 - ・ 訪日外国人旅行者の国立公園等の地域での体験・滞在の満足度を向上させるために、平成30年以降実施してきた媒体整備を実施してきた事業についての検証・アドバイス
 - ・ 事業の広報活動
 - ・ 新規採択事業の実施管理、アドバイス
 - ・ 観光セクターとしての提言等





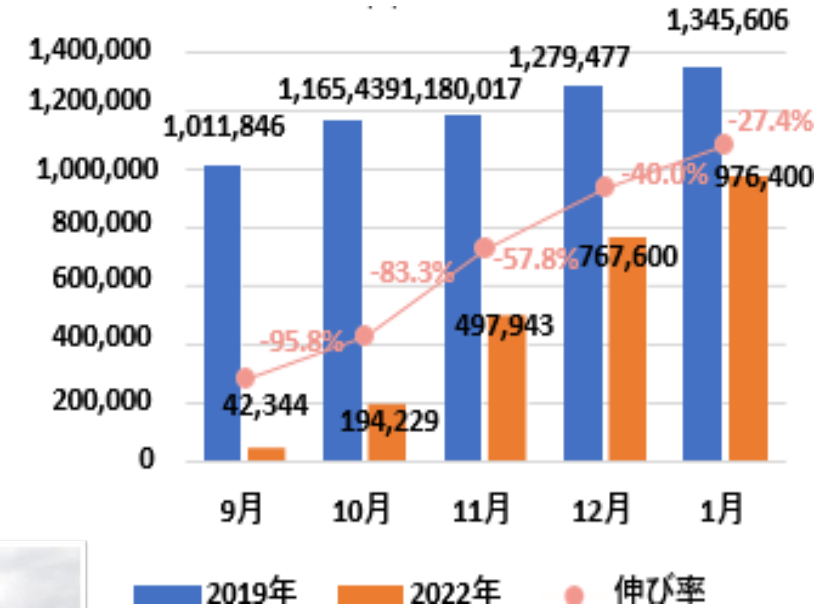
2-2. 環境省多言語解説整備調査事業

- 事業予算、概要
 - 令和5年度予算 4億円
 - 国立公園、国定公園等の自然体験拠点における案内板やビジターセンター・世界遺産センター等の展示物については、主に日本語での解説が多く、外国人旅行者に国立公園の魅力が十分に伝わらない。訪日外国人利用者が多く見込める自然体験拠点における多言語化の効率を高めるためには、国立公園、国定公園等の自然体験拠点において取り組みを進めることが必要。
- 事業内容 国立公園、国定公園、長距離自然遊歩道等の案内板やビジターセンター等の展示物、その他各種コンテンツ等について、ICTなども活用し、英語・中国語・韓国語等の多言語にて、外国人目線で分かりやすく魅力的な多様な解説整備をエリア一帯で促進。
- 効果 各国立公園等にて魅力的な多言語解説が整備されることによる、訪日外国人の国立公園、国定公園等での体験滞在の満足度の向上、滞在の長時間化、ひいては消費額の増大に資する。
- 事業実施スキーム
 - ＜直轄＞環境省→民間事業者
 - 補助率：2/3 ＜補助＞環境省→民間執行団体→地方公共団体、DMO、観光協会
民間事業者等
- 補助要件
 - ＜国立公園＞観光庁多言語解説整備事業で作成した解説文を活用すること
 - ＜国立公園以外＞観光庁の作成指針に基づき解説文を制作すること

3. ITF2023（台北国際旅行博）の募集について

- 開催期間: 2023年11月3日(金)～11月6日(月)
- 開催場所: 台北市・南港展覽館1F (TaiNEX)
- 日本ゾーン小間数: 150予定(台湾旅行社含む)
- 募集時期: 5月～6月予定
- 募集内容: ①ITF出展: シェルブース、土間渡し
②商談会(11月2日 日本観光振興協会主催)
- 今年度の新しい取り組み
 - ①日本ゾーン内ミニステージ設置
 - ②商談会後 台湾旅行社との懇親会実施

回復傾向の東アジア市場
【台湾】1・2月訪日外客数2019年度比65%
今春、台北線の再開続く



■ 東アジア(台湾・韓国・香港)訪日外客数
※韓国は2018年度数値使用
引用: JNTO「テーマ特化型情報交換会」資料

